

## 2. プロジェクトを取り巻く状況

### 2.1 プロジェクトの実施体制

#### 2.1.1 組織・人員

本計画の責任実施機関は **SEAFDEC** である。計画船を含み **SEAFDEC** 所属の漁業調査訓練船は **SEAFDEC/TD** が運航管理している。

**SEAFDEC** 事務局は **SEAFDEC/TD** とは約 **60 km** の道路距離で、本部事務局長と次長は各々訓練部局の局長と次長を兼務しており、**SEAFDEC/TD** は事務局と密接な関係の下に活動している。

**2001** 年 **3** 月における事務局と **TD** の在籍要員は、表-10 の通りである。

表-10 SEAFDEC/TD 要員

	常勤職員	契約職員	日本人 専門家	訓練生	その他	合計
事務局	8	11	2		4	25
<b>TD</b>						
(1) 訓練部	17	2	1	5		25
(2) 調査部	12					12
(3) 普及部	17		1	1		19
(4) 船舶部	41					41
(5) 管理部	12	1				13
(6) 営繕部	34	4				38
(7) 経理部	9	1				10
<b>TD 合計</b>	<b>142</b>	<b>8</b>	<b>2</b>	<b>6</b>	<b>0</b>	<b>158</b>
<b>本部+TD</b>	<b>150</b>	<b>19</b>	<b>4</b>	<b>6</b>	<b>4</b>	<b>183</b>

**SEAFDEC/TD** の **7** 部の内、訓練・調査等の実施部門の主な役割は以下の通りである。

訓練部	漁撈科と機関科に分かれ、すべての船上訓練、陸上での整備訓練を担当
調査部	漁具科と漁業経済科に分かれ、訓練計画を立案
普及部	視聴覚科と統計科に分かれ、漁業技術の普及、図書出版、等を担当
船舶部	SEAFDEC 係と PLAT00 係に分かれ、全船舶の運航と保守管理を担当

また、訓練部、調査部、普及部及び船舶部を横断する指導員群が以下のように構成されており、テーマ毎に船上、教室、または工作室での指導や調査業務に当たっている。

漁具・漁業技術指導員群	11 名	計 40 名
機械技術指導員群	9 名	
漁業海洋技術指導員群	4 名	
漁業経営・社会経済指導員群	4 名	
普及・統計指導員群	7 名	
水中音響探査指導員	1 名	
航海訓練指導員群	4 名	

計画船は漁業訓練業務と漁業資源調査業務を行い、前者については SEAFDEC/TD が専ら実施するが、後者については SEAFDEC/TD、マレーシアの SEAFDEC 海洋水産資源開発管理部局（MFRDMD）及び沿岸国研究者との共同作業となる。

2002 年 5 月における SEAFDEC/MFRDMD の職員数は次の通りである。

部局長	1 名	計 62 名
次長	1 名	
日本人専門家	1 名	
調査研究員	10 名	
補助スタッフ	49 名	
臨時職員	数十名	

計画船による水産資源調査航海では、SEAFDEC/TD と共に MFRDMD の資源研究部の担当員が乗船し業務に当たる。

## 2.1.2 財政・予算

SEAFDEC 訓練部局の 1998 年-2000 年の収支状況を下表に示す。

表-11 SEAFDEC/TD 収支状況 (単位 US\$)

	1998	1999	2000(暫定値)
収入	2,661,193	2,875,594	1,654,762*
支出	2,223,577	2,634,031	1,448,965
剰余	437,616	241,563	205,797

\* 日本からの現物供与は除く。

SEAFDEC 訓練部局の 1997 年-2001 年の所属調査訓練船に係わる運航維持費支出実績を次表に示す。運航維持費の訓練部局収入に対する割合は、1998 年 17.4%、1999 年 11.6%、2000 年 7.3%となっている。

表-12 SEAFDEC/TD 所属調査訓練船運航維持 (単位:US\$)

	1997	1998	1999	2000	2001
SEAFDEC号運航維持費	721,985	421,026	303,893	100,337	318,834
(内訳) 運航費	297,336	294,658	180,162	52,542	226,306
維持管理費	63,637	74,704	99,245	32,787	78,900
保険料	62,291	51,664	24,486	15,008	13,628
ドック費用	298,721	0	0	0	0
PLATOO号/PLALUNG号運航維持費	50,276	42,440	30,049	19,638	21,218
(内訳) 運航費	40,493	22,214	23,310	14,257	8,317
維持管理費	2,453	3,962	3,705	4,123	1,162
保険料	7,330	8,047	3,034	1,258	1,182
ドック費用	0	8,217	0	0	10,557
TD調査訓練船運航維持費計	772,261	463,466	333,942	119,975	340,052

## 2.2 係留施設及び修理施設

### 2.2.1 係留施設の状況

SEAFDEC/TD は敷地前面河岸に係船棧橋を所有し、所属船舶を係留している。隣接してタイ水産局所属船が係留されている。下流側はタイ海軍の艦船修理施設となっている。

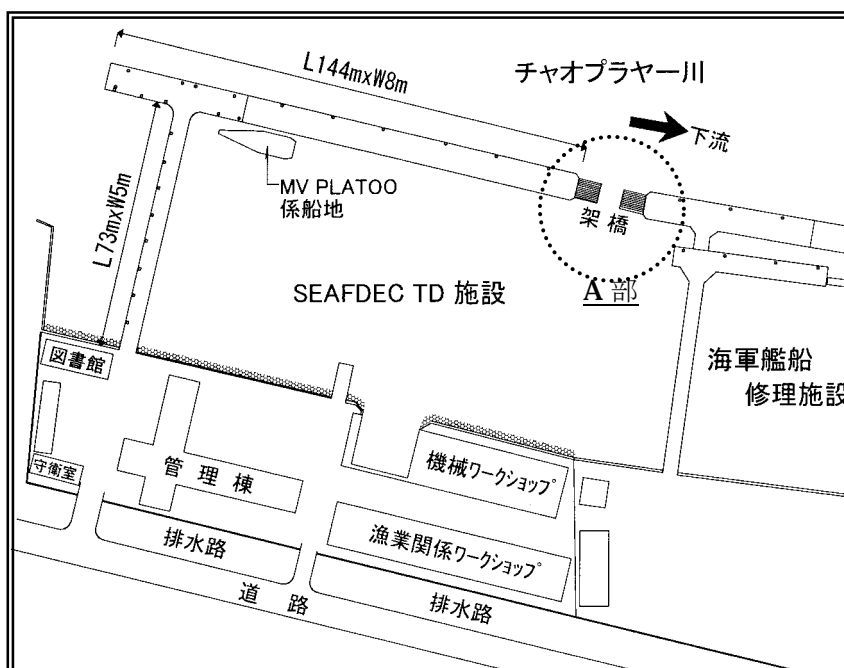


図-14 SEAFDEC/TD 棧橋

SEAFDEC/TD 岸壁は、船舶への給水配管ライン、給電設備 (AC 380V, 50Hz, 3ph) が整備され、管理棟、ワークショップと近接していることから車両による機材・試料の積み卸しのためのアクセスが良く、乗組員や訓練生の往来にも便利な配置となっている。現在 PLAT00 号が係留している棧橋の内側水域場所が計画船の係留域となるが、水深は 4m (干潮時) から 7m (満潮時) で喫水が 2.7m の計画船は問題無く係留が可能である。

また、計画船が係留場所に移動するためには A 部の架橋を通過する必要がある。架橋は棧橋の天板に対して 35 度の傾斜で固定されており、架橋基端間距離は①: 20m、架橋先端部間が②: 6m である。仮に満潮時の潮位が棧橋の天板部 (実際は天板部より約 1m 下方) として架橋先端部間までの

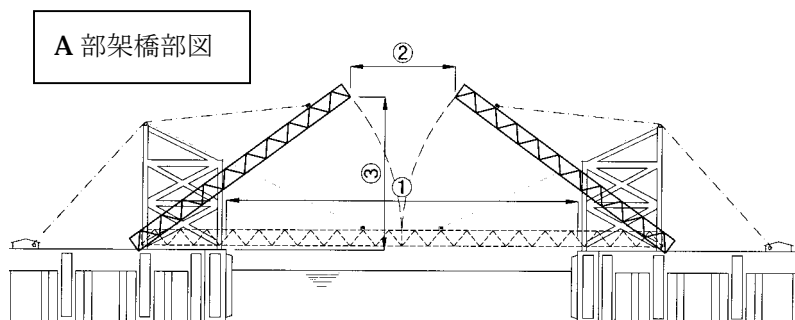


図-15 SEAFDEC/TD 棧橋架橋断面

高さは③：8.6m である。計画船の喫水より甲板上構造物（操舵室 幅：5.5m）頂部までの高さは6.3mでその上に5mのレーダースタブが設置されているが、計画船は水路中心を目安に航行すれば架橋を問題無く通過することができる。

## 2.2.2 修理保守施設の状況

計画船の通常の保守・点検、整備については、既存のSEAFDEC号、PLATOO号およびPLALUNG号の保守・点検、整備を実施しているSEAFDEC/TDのスタッフと機械ワークショップに設置されている機関用計測器、工作機械類、工具等により可能である。計画船の定期検査や修理のためのドックは、TDに隣接するAsian Marine Services Public Co.,Ltd.に依頼する計画としている。

同造船所の施設、設備の概要は次の通りである。

敷地 : 20,000 m<sup>2</sup>

岸壁 : 126m、水深 14m

斜路 : 15m x 70m、15m x 80m

設備 : クレーン—80t x 1基、45t x 2基

フローティングドック—3,500t用 x 1基、8,500t用 x 1基

同造船所は計画船の上架修理をおこなうに十分な能力のフローティング・ドック及びクレーンを有しており、SEAFDEC号も2002年3月4日より3月16日まで定期検査のために入渠し、開放点検や修理を行った実績がある。また、ロイズよりISO9002の認定を受けており、構内は整然と整理され、従業員の規律もよく、安全管理、作業管理、工程管理も行き届いており、計画船のメンテナンスには問題がない。

## 2.1.3 技術水準

SEAFDEC/TDの船舶部は、41名の職員を擁して、所属調査訓練船SEAFDEC号、PLATOO号、PLALUNG号の運航管理を行っている。計画船の就航後はPLATOO号、PLALUNG号は運航しないことが決定しており、現在両船の運航に従事している船舶職員、部員が計画船に異動する計画としている。資格要件も、充分有しており、運航に問題はない。

TDの訓練部、調査部職員は、SEAFDEC号、PLATOO号による漁業調査や海上訓練に携わってきている。幹部職員には、日本の大学で博士号を取得したのも複数名おり、技術水準も高く、研修や漁業調査の実施には問題がない。

計画船で行われる漁業資源調査項目はSEAFDEC/TDが共同調査などで既に実績を有する分野のもので、新たな調査分野は含まれないため、現在の技術水準で充分対応可能と考える。